

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第24回

原付バイクで集合？

高校2年時に同クラスになったことで、仲良しになった3人がいる。

その4人で、高校を卒業した3月に房総半島にドライブに行ったのだが、たぶん、その際だったと思う。4人のうちの1人のPが言った。

「4人とも、ラッタッタで集まれる場所に住んでさ」

そうだね、と返しながらかみんはほは笑んだのだった。ラッタッタとは1976年に発売された原付バイク・ロードパルのテレビCMから生まれた原付きバイクの通称だ。当時、4人とも現在の行方市内に住んでおり、原付バイクですぐに集まれる場所に、将来住みたいね、というやりとりだった。翌月から看護学生になり東京住まいになることが決まっていた私だが、ゆくゆくは戻って3人の近くに暮らすのだからという、なんとなくの予感があった。春風で土ぼこりが立つ中、原付バイクを運転して、行方のどこの待ち合わせ場所へと向かっている自分をリアルに想像してみたりもした。

私の予感は一当たらなかつた。私以外の3人は、行方や行方近くの地に居を構えたのだが、私は看護学校に進んで以来の約30年間、原付バイクでは到底すぐに駆け付けることのできない東京に住み続けたのだ。

そんな私が2008年に東京都からつくば市に移転し、その後行方市に行

く機会が増え、数年前には、わりと頻繁に4人で集まって行方かいわいでウォーキングをする機会を持つことができた。乗り物が自動車ではあるものの、集合の地に向かう際の感覚は、18の頃にイメージしたことに近いような気がした。ライングループを作り、4人の連絡が便利にとれるようになったこともうれしかった。原付で3人に会いに行くなんてことは、もはやありえないこととして私の頭の中であらためて整理された。

ところがだ。このほど必要が生じて家人が思いがけず原付バイクを購入したのだ。庭に置いたそれを見たら、最近つくば市に越してきたP宅を原付で訪ねてみたくなったのだが、まだ実現していない。距離的には問題ないけれど、運転したことのない原付に乗るのが怖いのだ。18のときのように若くはないことを実感中です。

小林 光恵さん



従来の50cc原付モデルは、2025年に生産終了になったようです。

行方市出身。つくば市二の宮在住。ウクレレの音色が好きです。なかなか上達しないのですが、たまに練習すると「やはりいいなあ」となります。行方市のうたを今度弾いてみようと思っています。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム⑭

こんにちは、農業ミッションの地域おこし協力隊の佐藤です。

任期も1年を切り、任期終了後に向けた準備作業が増えてきました。新規就農に向けた部分では、茨城県農業アカデミー主催の経営スタートアップ講座を、昨年7月から今年の2月まで受講しました。現在は、経営計画書の作成、市の農林水産課や県の農業普及員の方との就農相談、政策金融公庫の方との面談など、具体的な事務作業が増えてきました。

また1月には、滋賀県で開催された地域おこし協力隊ステップアップ研修に参加し、残り任期での活動と卒業後に向けた計画を立て、今後の就農準備と地域活動の行程を整理することができました。現在は、農業研修をしながら農地探しや、認定新規就農者認定を取得するための就農計画書の作成に取り組んでいます。ハウス付農地の案件はあまりありませんが、おかげさまで市民の方からご紹介いただける機会もポツポツと出てきました。

この記事が掲載される頃には、残り



▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施。

任期がちょうど半年となっているので、少しでも状況が進捗しているように引き続きがんばってまいります。(次号は、高木隊員が担当します。)



▲自分で育てたトマトを収穫



▲(写真上) 経営スタートアップ講座の経営計画書発表会 (写真下) 講座を終えていただいた修了証



▲地域おこし協力隊ステップアップ研修に参加



▲活動はInstagramに掲載しています。